



今年も残すところあとわずかになりました。  
今月は、12月に開催した研修会と、イベントについてご報告します。



## 12月恒例「スウィート緩和ケア研修会」開催

今年も12月12日に「スウィート緩和ケア研修会」を開催しました。この研修会は、2007年から東広島地区医師会が中心となって毎年12月に開催している、地域でなじみのある研修会です。

単なる「緩和ケア研修会」ではなく、最初に“スウィート”という言葉が付くこの研修会名に、東広島地区医師会緩和ケア部会会員の深い想いを感じます。この研修会の名付け親であり、毎年研修会の進行役を務めてくださる高橋宏幸先生は、東広島地区医師会 会報誌『竹林』の中で、「患者さん一人一人の苦痛と希望と死生観を“SWEET”という言葉に込めた。」と記しておられます。

今年も、「心に残る」在宅緩和ケアと題して、印象深い緩和ケアの事例を賀茂台地訪問看護ステーションの3人の訪問看護師が発表してくださいました。

訪問看護師の実践発表を通して参加者が意見交換することで学びが深まると共に、多職種の連携強化につながる研修会となりました。



2024.12.12 (木) 研修会風景



## がん患者さん・家族・支援者のつどい こころの駅舎 冬のイベント

2024年12月19日(木)に、こころの駅舎冬のイベントを開催しました。今回は、念願だった広島交響楽団に弦楽5重奏の演奏を依頼しました。

定員40名の席は満席となり、バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスの音色に魅了されました。普段間近で聴く機会がないプロの演奏を目の前で体験することができたことや、情感あふれるダイナミックな演奏に、一同大感激の様子でした。参加者からは、「とてもとても感動しました。すぐそばの席で聴かせていただき、選曲も最高でした。」「レベルの高い演奏は力強く、心を揺さぶられました。」「優しい音が降り注いでくるようでした。」など喜びの感想が相次ぎました。また当日は二人のがん患者さんの誕生日だったこともあり、弦楽器で誕生日の曲をサプライズ演奏してくださいました。思いやりある演奏に、明日への力がわいてくるようでした。心あたまるイベントになりました。